

●竹蛇籠を作る講習会、初日120人、二日目58人の驚きの参加がありました。



参加集約では毎日追加や欠席の連絡があつて、名簿の確定が大変でした。竹蛇籠づくりには参加したいが諸般の都合で出欠席が確定しなかったのであろうと推定されます。それは竹蛇籠に関心を持っておられる人々が多くおられるということでしょう。最終受付人数は、予定の100人をはるかに超える思いもしなかった104人でした。結局当日参加者があつて120人になりました。兵庫県や高知県、奈良県、滋賀県、奈良県等考えもしない遠方からご参加があり、関心の大きさにも驚きました。そしてグループ編成では20人になりました。

***蛇籠の製作では、**目標18本に対して15本が組み上がり、設置目標6か所でしたが右岸の中央を残して完成できました。ここまで到達できるとは予想していなかったのですが、計画通り形が整いました。



***翌日の読売新聞が京都府全域版のトップ扱**で竹蛇籠づくり講習会の記事を紹介されました。記事内容には、ねらいとしていたところが正確に伝えられています。18日朝、記事を目にした自衛隊員さんから里山の会を知った。「自然復興は川をよみがえらせることだと思います。お話をお聞かせ願いたいと思います」とメールが届きました。そのほかツイッターなどでこの記事が随分と紹介されているとの事でした。

***大井川を中心に活躍されている原小組さんは、**17日の午前4時に静岡県島田市を出発されて木津川（京都府綴喜郡井手町玉水）にお越しいただきました。随分と京都に行くことを希望されていた方が多くおられたようですが、この日は地域の祭りが行われて、かなわなかったとの事でした。指導講師を頂きました原小組さんには、全くなにも知らない私たちにご指導いただきました。



***事務局会議では、どのように製作を進めるのかを**話し合いましたが、原小組さんの意向をお聞きして進めることになりました。実際に作りはじめてみますと、やはり最初の六角形の骨組みとその固定と、次に7本目の竹の追加、そして7本を順次編み込んでいく横筋の役割のかわし方のコツが難しかったようです。おおよその形は理解できているのですが実行してみますと計画通りにはいかないのが実際でした。皆さんは相当の悪戦苦闘、論議百中の連続となりました。

***昼過ぎまで、全く**形が見えず籠が編みあがるのだろうか、現地への設置にまで到達できるのだろうか、随分と心配しました。この調子だと竹蛇籠を左岸から右岸に渡河する右岸の竹蛇籠は出来上がらないと思いました。予定では編み上げた18本のすべての竹蛇籠を左岸に運び、カヌー4隻を組み合わせた台船に乗せて右岸に渡河して、左岸と右岸で同時に杭打ちや玉石入れ等を行えるようユンボも控えていただいていた。肝心の竹蛇籠が出来上がらないので、急遽左岸で何とか出来上がった竹蛇籠3本で設置させ一カ所を完成させることにいたしました。



***15時過ぎに竹蛇籠運搬をお願いしていた高橋慶平さんの**トラックが駆け付けてくれて、参加者全員が左岸設置予定地にマイクロバスなどで移動、明日は欠席するという半数の皆さんにも見ていただこうと台船による渡河をデモンストレーションを行って、設置が始まりました。



この作業で最も心配していたのが片側50本の蛇籠流失を防止する松杭の打込みで、カケヤを用いるとしていました。ここで田中組さんが提供を申し出ていただいたユンボがすごい威力を発揮して、あっという間に杭打ちが進みました。機械力のすごさに驚きました。その威力のおかげで即みんなで玉石入れに取り掛かれました。水中部分にはユンボが石をバラバラと投入してくれたので、人海戦術は陸上部への玉石入れを約一時間で、俵積み3本、長さ7mの蛇籠の設置が完成しました。ユンボの提供が無ければ、本当に大変な事態になっていたと思います。田中組さんの協力に大きな感

謝です。予定終了時間をオーバーする 17 時に竹門先生と原小組社長の挨拶を頂いて散会しました。

***竹蛇籠つくりと並行して午前 11 時には**同志社大学生の応援が揃ったので台船による蛇籠の川渡しの試行を行いました。グループレンジャーの北野君が胴長で左岸に渡りました。ここしばらく晴天続きで、高山ダムの放流はナシとなっていました。深いところでも膝の高さの水量でした。女子学生の方も男子学生のサポートを得て渡河を経験されました。左岸に着いて、用意していた台船を引くロープを手繰りました。予想していた以上に軽く引き込みができました。これで最大の難関をクリアできることがわかりました。一安心です。



***台船を左岸と右岸を往復させる引き綱は、**



午前7時に大植登さんの協力（カヌーを使ってロープを張る作業）を得て

渡しきることが出来ました。一週間前に事前テストを行っていたので、本番に備えて教訓を生かし改善を進めたので、たやすく完了できました。

***二日目は初日の経験を生かして**参加人数も半分になりましたので、講習と蛇籠つくりには体制を組みなおして取組み 15 時には 12 本の蛇籠が完成、左岸にも右岸にも計画通りに蛇籠を設置できました。ここでも短時間に田中組さんには大奮闘を頂き成功させていただきました。そして三日目午前中に残った二カ所の玉石入れに特別にご協力いただき、完成までこぎつけることが出来ました。ここでの生き物がどのように変化していくのか調査結果が楽しみです。この取り組みに絶大なご協力とご支援を頂いた多くの方々に心からお礼申し上げます。里山の会の力だけでは、とても完成できない木津川の歴史に残る大事業が完成しました。有難うございました。